

## JR・私鉄「役員報酬と社員年収」

今回引用したのは、8月2日の東洋経済オンラインに掲載されていたデータです（下図参照）。この数値が示す通り、我が社は「コロナ禍で会社存続の危機」とまるでオオカミ少年のように騒ぎ立て、私たち社員の不安を煽り徹底した人件費削減を進める一方で、自身はひたすら私利私欲を追求し一人勝ちを目論んでいます。マジックでいうミスディレクションみたいなものですね。「社員年収」を比較しても分かるように、会社が「コロナ」を免罪符に、もともと下限にあった労働条件をここぞとばかりに引き下げようとしているのは明白です。臨時貸付制度、テレビ撤去、某乗泊の休憩室封鎖（他の部屋で密状態）といった数々の愚策からも、社員から搾り取れるものは意地でも搾り取ってやろうというわけだからその悪質さに辟易させられます。「モンキービジネス」という悪ふざけやインチキを意味するアメリカにおける造語（19世紀後半）がありますが、笑うに笑えません。ところで、4日の西日本新聞によると、JR九州が3日発表した2021年4～6月期連結決算は、純損益が9億2700万円の黒字だったとのこと（前年同期は51億1900万円の赤字）。列車の減便や人件費の圧縮による黒字化というのも情けない話ですが、そもそもコロナ前にあっては、会社は「赤字路線が多い鉄道の事業で儲ける気はない」という姿勢を露わにして安全設備等への投資を怠ってきました。それがコロナを期に今度は「鉄道収入の大幅な減少による危機的状況」と大騒ぎし、社員や乗客の切実な声を度外視して堂々とコスト削減に踏み出すのは、あまりに調子が良いといえないでしょうか。

■ 2019～2020年度「役員報酬」の変化率

順位	会社名	変化率	2020年度 (億円)	2019年度 (億円)
1	南海	-35.9%	1.9	3.0
2	阪急	-35.6%	1.9	2.9
3	名鉄	-33.8%	2.3	3.5
4	JR東海	-31.5%	5.7	8.3
5	京急	-30.8%	2.8	4.0
6	JR東日本	-29.5%	3.6	5.2
7	東急	-24.9%	3.5	4.7
8	小田急	-24.3%	2.8	3.7
9	京王	-22.7%	3.4	4.4
10	JR西日本	-21.1%	3.9	4.9
11	阪神	-20.7%	3.0	3.8
12	西鉄	-20.0%	3.3	4.2
13	近鉄GHD	-14.5%	2.9	3.4
14	近鉄	-13.2%	2.4	2.7
15	JR九州	-11.6%	2.7	3.1
16	京阪HD	-10.3%	2.8	3.1
17	西武HD	-9.4%	2.7	3.0
18	東京メトロ	-9.4%	2.8	3.0
19	相鉄HD	-3.0%	1.9	2.0
20	京成	0.0%	2.5	2.5
21	阪急阪神HD	0.7%	1.4	1.4
22	東武	1.1%	2.8	2.8

(注) 社外取締役、監査役を除く役員報酬の変化率。小数点第2位を四捨五入。順位は小数点第3位以下も考慮

■ 2019～2020年度「平均年収」の変化率

順位	会社名	変化率	2020年度 (万円)	2019年度 (万円)
1	京阪HD	-9.8%	740.7	821.6
2	西鉄	-8.7%	535.8	587.2
3	JR九州	-8.7%	509.8	558.1
4	JR西日本	-7.6%	611.7	662.2
5	JR東日本	-6.3%	673.6	719.1
6	東武	-6.2%	669.8	714.1
7	小田急	-5.2%	720.4	759.7
8	京王	-5.0%	680.5	716.3
9	近鉄	-4.9%	566.8	596.3
10	阪神	-4.6%	592.6	621.4
11	京成	-4.4%	715.0	748.1
12	名鉄	-4.1%	582.7	607.7
13	東京メトロ	-3.4%	720.3	745.7
14	JR東海	-3.1%	713.7	736.3
15	相鉄HD	-2.9%	878.5	905.0
16	近鉄HD	-2.8%	721.8	742.8
17	西武HD	-2.6%	802.2	824.0
18	京急	-2.4%	679.1	696.0
19	阪急	-1.8%	750.0	764.0
20	南海	-1.8%	611.8	622.9
21	阪急阪神HD	-1.8%	864.4	879.8
22	東急	-1.1%	762.7	770.9

(注) 従業員平均年間給与の変化率。小数点第2位を四捨五入。順位は小数点第3位以下も考慮